

法政アクティブリサーチ 成果報告書

(2018年後期～2019年前期)



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY



はじめに

2017 年後期から、新設の法学部正課科目として実施した「法政アクティブリサーチ」は、2018 年後期から、新たな参加学生と担当教員の体制の下で第二期目を実施した。本報告書は、当該科目における学生、外部講師の方々、調査・ご指導いただいた関係機関の方々、教員、事務職員、AR スタッフの方々と取り組んできた 1 年間の活動成果をまとめたものである。

昨年の報告書作成段階から現在までの関連する取り組みは、本報告書内に掲記された共通講義、個別クラスの活動だけではなく、そのほか、法政アクティブリサーチの第一期生合同報告会（2018 年 6 月 20 日）〔各個クラスの報告、河合保弘氏（司法書士法人ソレイユ）および伊藤拓氏（文部科学省高等教育局）のご講演〕、「夢ナビライブ 2018 大阪会場」活動報告（2018 年 6 月 16 日に）、夏休み期間中のオープンキャンパスでの活動紹介〔実施学生と担当教員の報告〕を行った。さらに、龍谷大学法学部の FD 会議（2019 年 2 月 20 日）、第 14 回龍谷大学 FD フォーラム（2019 年 3 月 25 日）では、他機関からの参加も得て取り組みを紹介するなど、広く学内外へも情報発信した取り組みを実施した。また、成果として実施している法政アクティブリサーチ科目について、専用 HP (<https://www.law.ryukoku.ac.jp/activeresearch/>) および専用ブログ (<https://ryukokulaw.blogspot.com/>) を立ち上げ、広く学内外に発信している。

本科目運営を担った法学部 GP 委員会は、教員約 6 名と法学部職員により 3 年間で 33 回もの会議を行い、文部科学省をはじめとする様々な外部機関へのヒアリングを実施し、アクティブ・ラーニングの手法に関し「ルーブリック評価」のあり方の検討や、共通講義の内容や進め方、個別クラスの取り組みの情報交換などについても議論を重ねてきた。

個々の取り組みにおいて大きな発見や前進があるが、他方で、クラス運営や学生の取り組み姿勢、理解力の問題や進め方に関する課題も少なくなく、担当教員と参加学生は試行錯誤の連続ではなかったかと思う。

しかし、本取り組みは実験講義であって、失敗も成功も含め私たち教員にとっての FD 実践を行う科目という位置づけをしている。したがって、本報告書は学生の個別テーマに関する取り組みの報告書であるばかりではなく、共通講義の取り組みや科目を実施する中で発見した問題や課題の克服に関わる率直な意見も併せて掲載されている。今後、様々なアクティブ・ラーニングを実践する上で、何らかの示唆を与えるものとなれば幸いである。

最後に、この科目を実施するにあたり、共通講義およびクラス別のフィールドワーク活動において、多くの方々から、叱咤激励とともに多大なご協力をいただいた。こうした実社会の最前線の取組みに触れる中で、「学び」を真摯に経験した学生たちが、社会に出て次世代の大きな力となることを祈念しつつ、皆様には、この場を借りて深く感謝を申し上げたい。

2019 年 6 月 19 日

龍谷大学法学部アクティブリサーチ運営委員会

2018-19 年度 法政アクティブリサーチ科目担当教員

牛尾洋也、鈴木龍也、濱中新吾、今川嘉文

～総 目 次～

はじめに	龍谷大学法学部アクティブリサーチ運営委員会
	2018-19 年度 法政アクティブリサーチ科目担当教員
	牛尾洋也、鈴木龍也、濱中新吾、今川嘉文
龍谷大学法学部の挑戦	牛尾 洋也
～AI 時代の教育実践と課題～	
法学部教育とコミュニケーション能力	鈴木 龍也
サーベイ実験が解き明かす政治の課題	濱中 新吾
～実験社会科学とフィールドワークの融合	
神戸タータンにみる新たな「文化の創造」	
と「地下鉄サリン事件」の再考察を通じて	今川 嘉文
第二期（2018 年後期～2019 年前期）法政アクティブリサーチの記録	野間 元綺
各クラスの調査報告書	

牛尾 洋也クラス

長崎・佐賀における地域振興 ～日本遺産・世界遺産・島嶼の観点から～

はじめに

第一章「文化の継承と地域振興における日本遺産の在り方」

綾部 友宥・柴田 洋武・峠 元太・米谷 和哉

I 日本遺産と地方創成・文化の衰退の現状	p47
II 調査活動報告	p51
III 総括	p72
IV 法政アクティブリサーチでの学び	p73

第二章「長崎の世界遺産から見える保存と活用について」

市川 弓東・江端 碧里・高松 新菜・村上 章・守田 梨紗

I 日本における文化政策と保存と活用	p75
II 春合宿ヒアリング活動報告	p79

Ⅲ 文化財の保存と活用の変化	p90
Ⅳ 総括	p91
Ⅴ フィールドワークを含む活動からの学び	p92

第三章「離島振興～よそ者から呼び込む郷土愛～」

北村 友聖・熊野 一朗・竹内 聖登・松山 昂樹

Ⅰ 総論～島の歴史と振興～	p94
Ⅱ 調査地	p100
Ⅲ 考察	p116
Ⅳ 総括	p118
Ⅴ 法政アクティブリサーチからの学び	p119

おわりに

鈴木 龍也クラス

食品ロスに対する検討

Ⅰ. はじめに	p 121
Ⅱ. 食品ロスの現状	p 122
1. はじめに	
2. 食品廃棄物	
3. 食品ロス(食料ロス)とは	
4. 家庭系の食品ロス及び外食産業の食品ロスの原因と対策について	
5. 事業系の食品ロスの原因と対策について	
6. 感想	
Ⅲ. 『食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律』の検討	p 127
1. はじめに	
2. 基本事項	
3. 細部の規定	
4. まとめ	
Ⅳ. フードバンク	p 139
1. はじめに	
2. フードバンクとは	

3. フードバンク団体の現状
4. フードバンクの課題
5. 調査のまとめ

V. 食品リサイクルの課題から現場を考える p 154

1. はじめに
2. 課題
3. 見解
- 補論
- 参考資料

VI. 学びを通して p 164

濱中 新吾クラス

世田谷区をはじめとするパートナーシップ制度の現状と東京レインボープライド ～ LGBT の声 ～

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| I 法政アクティブリサーチ・濱中クラスの問題提起 | p 169 |
| II 世田谷区の同性パートナーシップ宣誓の制度について | p 172 |
| III 世田谷区役所における取材調査 | p 177 |
| IV 東京レインボープライドとは | p 182 |
| V レインボープライドに参加して：フィールドワーク報告 | p 188 |
| VI 他の地方自治の対策制度 | p 192 |
| VII 法政アクティブリサーチ・濱中クラスの結論と考察 | p 197 |

今川 嘉文クラス

- 第一部 「神戸タータン」と産学官連携の新たな枠組み
- 第二部 「地下鉄サリン事件」と被害者の思い

第一部 「神戸タータン」と産学官連携の新たな枠組み

- | | |
|------------------|-----------------|
| 序章 実は理系だけじゃない？！ | p 202 |
| 第一章 「神戸タータン」について | p 203 |

- I 「神戸タータン」の概要
- II 「神戸タータン」と産学官連携
- III 「神戸タータン」の魅力
- IV 産学官が一体となった事業展開
- V これまでの活動
- VI 今後の販路拡大

第二章 産学官連携 p 213

- I 産学官連携について
- II 文部科学省による産学官連携実施調査
- III 産学官連携の課題・改善アプローチ
- IV 産学官連携取り組み事例

第三章 各取材先のヒアリング調査 p 222

- I 株式会社ナカムラへのヒアリング調査
- II 神戸学院大学附属高等学校へのヒアリング調査
- III 神戸松蔭女子学院大学へのヒアリング調査
- IV 神戸市へのヒアリング調査

第二部 「地下鉄サリン事件」と被害者の思い

序章 p 248

第一章 「地下鉄サリン事件」の概要 p 248

- I 裁判等法的な経緯
- II 藤田浩之様、高橋シズエ様のご講演

第二章 被害者の手記 p 250

- I 地下鉄サリン事件被害者の会編『私にとっての地下鉄サリン事件』より
- II 「もっと互いに理解しあえたら」（高橋シズエ＝河原理子編『〈犯罪被害者〉が報道を変える』（岩波書店・2005 年）第一章より）
- III 「これから」（高橋＝河原・前掲書第五章より）

第三章 「地下鉄サリン事件から 24 年の集い」への参加 p 264

- I 宗教団体の壁
- II 管轄の壁
- III 化学捜査の壁
- IV 組織の壁

第四章 私たちの「地下鉄サリン事件」を通じた感想 p 266

おわりに 今川 嘉文